

令和七年度 中学生の「税についての作文」

野田市教育長賞

私たちを守り・つなぐ税

野田市立東部中学校 第三学年 細渕 達矢

先日、ロシアのカムチャツカ半島で、マグニチュード八・八の地震が起きた。私は、地震が起きた時、部活をやっていて、地震が起きたことに気づかなかったが、家に帰ってみるとテレビでは、どこでもこの地震についてだった。私は、テレビを見て地震を知り、すごく怖くなった。

時は遡り、二〇一一年私がまだ一歳になる前の頃、東日本大震災が起こった。私は、当時のことをあまり覚えていないが、母や父から話を聞いたり、色々調べたりして、地震の恐ろしさについて少しだけ知っている。今回の地震では、日本での被害は、あまりなかったようだが、去年の能登半島地震もあったように近年、地震が増えてきているように感じる。こうした中、私は、これから起こるかもしれない、南海トラフなどの大きな地震に備えるべく、甚大な被害を受けた地震をもっとよく知るために調べてみようと思った。色々調べてみると、災害が起きた時には、私たちが支払っている税金がすごく人々の力になってくれていると知った。例えば、災害が起きた時の緊急情報、警察や消防、自衛隊の方々による活動、避難所での生活、家や道路などの町の復興などが税金によって行われている。自衛隊の方々は、自らの危険をかえりみず、たくさんの人々を助けてくれたり、避難所での生活を支えてくれたりと人の命や安全を守ることに多く使われている。

私たちの学校では、実際の避難所での生活を学校で再現して、泊まるなどの災害について学ぶスタディエマーゼンシーキャンプという行事があり、体験してみると避難所での生活は、自分だけの空間がなかったり、寝るときに腰が痛くなるなど大変だと分かった。このように、避難所での過酷な生活から早く抜け出すためにも、税金は使われていて、町の復興が早く進んでいくことで、被災者の不安やストレスを取り除くことができる。しかし、避難所がなければ、被災した状況で生きていくのは難しい。そのため、避難所もとてもありがたいものだ。このように、私たちは税金があるおかげで、色々な恩恵を受け、生きていくことができる。

もし税金がなかったら、災害が起きた時、家もお金も全てなくなり、避難所や自衛隊の救助もない、自分の身一つで生きていかなくてはならない。町の復興もいつ行われるか分からない。そうならないためにも私たちは、税金を納めなくてはならない。人の命を守り、一人一人が協力するためにも大切なものだ。

災害だけではなく、私が毎日通う中学校や医療なども税金によって支えられている。税金は、私たちを守り、緊急時や日々の生活でも助けてくれる、とても大切なものだ。私は大人になった時でも税金の大切さをよく理解し、少しでも社会に貢献できるように生きていきたい。